



10月(神無月)「スポーツの日」

前田 由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

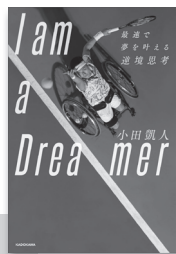
10月第2月曜日は、1964年初の東京オリンピックの開会式に因んだ祝日スポーツの日です。先月9月世界陸上が東京で開催されましたが、最初は中学駅伝の小説『あと少し、もう少し』です。弱小陸上部で駅伝に参加できる選手が3名しかおらず、他の部活生徒やヤンチャ生徒を入れて出場します。駅伝の6区間を章立てとして、それぞれの



瀬尾まいこ・著
新潮社

走者目線で物語が転換し臨場感が味わえます。困難を抱えた6人の走者の絆がきっちりと繋がることで、不甲斐ない現状を超えて新たな境地が見えてきます。仲間と一緒に何か1つのことに打ち込めることは素敵なことですね。駅伝だけでなく、あなたも誰からか渡された絆を次の人に渡してみませんか。

次は、車いすテニスプレイヤー小田凱人さんの『I am a Dreamer 最速で夢を叶える逆境思考』です。彼は、先月、四大大会とパラリンピック全てを制覇する生涯ゴールデンスラムを史上最年少の19歳で達成しました。病気により9歳で車いすユーザーとなった小田さんが、大好きだったサッカー選手の夢を断念してから車いすテニスのプロ選手になった18歳までを振り返り、なぜ短期間に世界のトップ選手になれたかの理由を解き明かします。車いすテニスを極めたいという好奇心が、次から次へと楽しみを生み出していきます。独自の美学をもち、健常者と比べて、パラスポーツ選手が批判に晒されにくい立場であることに違和感があるとも述べています。



小田凱人・著
KADOKAWA

者と比べて、パラスポーツ選手が批判に晒されにくい立場であることに違和感があるとも述べています。

来月11月には、ろう者のオリンピック「デフリンピック」が日本で初めて開催されます。『世界に挑む! デフアスリート 聴覚障害とスポーツ』は、手話や口話法による教育、ろうスポーツの歴史、パラリンピックとの違い、デフリンピックで活躍している選手へのインタビューにより、デフリンピックの理解を深めてくれます。スタートは3つのランプが次々点灯し、審判の判定はフラッグを使用し、オリンピックにない競技に、オリエンタリングとボーリングがあります。世界中のデフアスリートが集うデフリンピックをこの機会に応援しましょう。



森埜こみち・著
ベリかん社

最後は、経営学の権威ドラッカーの教えを高校野球に応用した小説『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』です。一冊の経営書から、女子高生がマネージャーの資質は「真摯さ」と気づき、組織の定義づけ、顧客とは誰か、現実・欲求・価値のマーケティング、生産性、フィードバック、継続学習、人を生かす組織そして、「ノーバント・ノーボール」のイノベーション、社会への貢献と次々に仲間と一緒に実践して甲子園を目指すところが爽快です。ドラッカーの引用文が所々に出てきますが、その要点を見事に具現化していく場面は、きっとあなたにも参考になるはずです。望まなければ始まらない。実行することで夢に近づきます。



岩崎夏海・著
新潮社

夢に近づきます。

